

関西大学初等部

大阪府高槻市



学校の特徴

関西大学初等部は、2010年の開校以来「**思考力育成**」を掲げ教育に取り組んでいます。「考える力を養う学び」として「**ミューズ学習**」という「考えることを考える学習」を立ち上げ、1年生から6年生まで、系統的に「考えるわざ」（思考スキル）の習得と活用をしています。ミューズ学習では、「比較する」「分類する」「つなげる」「多面的にみる」「構造化する」「評価する」の6つのわざを使い、組み合わせることで、対象から情報を収集し、整理分析、まとめるといった情報活用の質を高めることを学びます。その「考えるわざ」を「シンキングツール」（グラフィックオーガナイザー）と1対1対応させ、その使い方を学んでいます。

また、「世界とつながる力を養う学び」として、「英語教育」「総合的な学習」にも力を入れています。英語を「聞く・話す・読む・書く」ことができるように、6年間一貫して英語活動を実施します。国際理解学習を軸に、社会への参加・貢献の態度の養成をめざしています。関西大学への該当国からの留学生と交流したり、テレビ会議で現地の人たちと交流したり、異文化交流の実践にも積極的に取り組みます。

ICT環境においては、2014年から1学年1人1台環境を整備し、2017年には低学年はShared iPad、4年生から6年生までが個人持ちiPadを使用し、全学年1人1台環境が実現しました。2020年、Covid-19への対応ではいち早くオンライン学習に取り組みました。この年から1年生からの個人所有のiPadとなり、全学年が個人所有の1人1台活用となりました。

このように、関西大学初等部は、思考力育成を土台にAppleのテクノロジーを中心としたICT活用を位置づけ、低学年、中学年、高学年と系統的に「思考力」の習得、活用を大切にしています。



低学年の学び

問題解決に対して思考や創造の意
味を考えながら実行する



中学年の学び

問題解決に向けて、どの方法が有
効なのかを意識して、時にスキル
を組み合わせながら実際に解決に
向けて行動する



高学年の学び

思考と創造のつながりを意識的
に行い、オリジナリティあふれ
る自己表現を実現する



学校の概要

生徒数360名

教員数30名

私立

第1学年～第6学年

[Webサイト](#) [ブック](#)



Appleの製品とサービス

iPad（1人1台）
Shared iPad（90台）
Macbook（120台）
Apple Pencil（90本）
Apple TV（全教室）
iPad（教職員1人1台）
iMac（教職員1人1台）

Apple School Manager
Managed AppleID
クラスルーム
スクールワーク

Everyone Can Code
Everyone Can Create



ビジョン

関西大学初等部は、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を4つの柱として、高い人間性を持った「感じ・考え・挑戦することのできる子どもの育成」を目指します。関西大学が掲げる「未来を問い、そして挑戦する。」（「Kandai Vision 150」）の具体化を目指し、教科の枠を超え、総合的に問題を解決するために思考力・創造性を発揮し、テクノロジーをうまく使いこなし、思考に合わせて活用できる子どもたちを育てています。

これからの社会において、思考力と創造性を発揮しながら、新しい価値を生み出していけるリーダーとなってほしい、という願いが、本校の愛唱歌「ここをひとつに」に、「...世界を拓け 関西大学初等部...」という歌詞に込められています。そのために、各教科や総合学習の時間に『なぜ学ぶのか』という目的意識を持たせることを大切にし、自らの問いを追究し、解決につなげる学びを進めています。

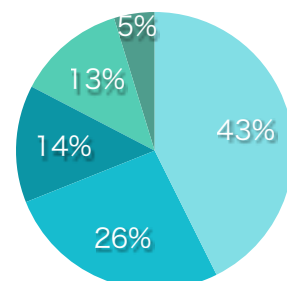
学習

本校の「情報活用能力スタンダード」をもとに、系統立てて学習が組み立てられています。Apple製のアプリケーション（iWorkなど）をメインに使用し、情報収集、整理分析・まとめ、共有・発信のあらゆる場面で活用しています。教科学習のあらゆる場面で、Everyone Can Createの考え方を土台に、創造的な活動を取り入れています。テクノロジーによって表現の幅が広がり、学習経験の質が変容しています。もちろん、表現活動は、ただ自由にやればいいというものではなく、そこに思考が必ず介在していると考えています。「なぜ表現するのか（Why）」「何を表現するか（What）」「どう表現するか（How）」という3つの視点において、「情報活用スタンダード」にあるように、「思考・表現・判断」の観点の中で、クリエイティブスキルは、思考スキルの習得と活用・プログラミング的思考と密接に関わっています。低学年、中学年、高学年と成長することで、「テクノロジーをどのように組み合わせ、社会と密接に関わる課題をどのように解決していくことができるか」について、自分で学習をマネジメントしていける姿を期待しています。もちろん、問題解決にあたっては、共有・協同を前提にしています。また、Everyone Can Codeの考え方を軸に、「1年生からプログラミング学習に取り組み」、体験的な活動と実際のコーディングを組み合わせ、プログラミングの概念を理解していきます。プログラミングの概念を教科の学習に活かしながら、より深い思考ができるようにしています。アプリケーションのプロトタイプも作成し、アプリケーションデザインについても早い段階から考え、「役に立つもの」「意味があるもの」などコンセプトを共有、ブラッシュアップする経験を多くしています。

成果

4年生から6年生の児童193名を対象に、iPadを活用した学習に対する調査を行いました。「iPadを活用することは学習に効果があると思いますか」の回答として、「とてもある」「ある」と答えた児童が、98%でした。「どのような時に活用することが効果的であるか」の回答として、上位3つが「友だちと考えを共有するとき（43%）」「何かを調べるとき（26%）」「自分の考えを発表するとき（14%）」となりました。これは、本校が「思考力育成」において大切にしている「情報収集」「発信・共有」と重なる項目です。1年生からミューズ学習に取り組み、問題解決のために情報を集め、整理分析し、それを共有する経験を積んできていること、さらに、そこにテクノロジーを活用することで、プログラミング学習や創造的な活動を通して、iPadの良さに触れてきた効果が表れていると考えられます。

どのような時に活用することが効果的だと思いますか



- 友だちと考えを共有するとき
- 何かを調べるとき
- 自分の考えを発表するとき
- 授業で学習したことを家でも続けて学習したいとき
- 調べたものを記録するとき

また、iPad活用を活用した学びの良さについて、複数の児童が「自分が創り出したもの友だちに面白いと言ってもらえて嬉しくなり、そこからたくさんお家でもアプリケーションを作るようになりました。」「その楽しさがいつの間にか自分にとっても、相手にとっても『学び』になっています。」「（学校内ではなく、お家に帰ってからでも）離れた場所にいる友だちと、iPadを使って考えを共有できるので、お互いの考えがどんどん深められます。」と述べています。先述の調査においても「授業で学習したことを家でも続けて学習したいとき」に価値をおいている児童が13%いることから、テクノロジーを活用することで授業時間や学習する場所が制限されない新しい学び方が定着しつつあると考えられます。目的・課題意識を持った児童が自らの問いを追究し、課題解決に向けて学びを創り続けるためにも、テクノロジーの導入は、今や本校の教育ビジョンに則した学びを支える1つの大きな役割を担っています。

児童の声



今後のプラン

今後は、子ども同士が主体的・協働的に学びを創り出すため、Apple製のアプリケーションをより積極的に活用し、学び合いのさらなる多様化を目指していきます。また、「思考力」と「創造性」という2つの柱を両立した授業実践を継続して積み重ねながら、本校が独自に制作している「情報活用能力スタンダード」にさらなる改良を加え、関西大学初等部としてのテクノロジーを活用した学びのあり方をApple Distinguished Schoolとして広く提案していきます。